

びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫における脾浸潤と予後との関係を調べる研究

北播磨総合医療センター 血液腫瘍内科 杉本 健
同 放射線診断科 富田 優

びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫においては初発時の予後因子として年齢、病期、節外病変数などが知られています。一方脾臓はリンパ節臓器として扱われていますが、治療開始時に腫瘍の脾臓浸潤のある患者様の治療成績が悪くなるかどうかははっきりとはしていません。この度は初発時に PET-CT を撮影したびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の患者様で、画像上脾臓浸潤があると判断される方に対して治療後 2 年間の再発率が高くなっていないかどうかを中心に検討します。

具体的には当院で上記リンパ腫と診断され化学療法を開始された患者様のうち、治療開始時及び初回化学療法終了時に PET-CT を行っている方を対象とします。なお中枢神経原発のリンパ腫及び血管内リンパ腫と診断された方は除外します。

患者様の電子カルテより年齢、性別、臨床病期を含む臨床データ、化学療法レジメン等の情報を記録し、後方視的に解析します。また PET-CT 画像を用いて、脾臓及び肝臓の腫瘍の集積を評価します。この評価は視覚での評価及び臓器への総集積量を計算した上で、両者を用いて判定します。

治療経過は治療開始後 2 年間の無増悪生存率 (Progression free survival at 24 months; PFS24) を電子カルテ収集したデータより判断します。

患者様の安全の確保：後ろ向き観察研究のため、患者様に侵襲を加えることはなく安全は確保されます。

金銭的な事項：後ろ向き観察研究のため患者様に請求する予算は発生しません。

研究に参加する場合のメリット・デメリット：この研究に参加する・しない場合の診療におけるデメリットはありません。

個人情報の保護について：個人識別情報（氏名、住所など）は、保護された状態を保ちます。そのため個人識別情報が使用されることはありません。

問い合わせ先について：北播磨総合医療センター 血液腫瘍内科 杉本 健 まで
(電話代表：0794-88-8800)

(2021 年 3 月)